



巻 頭 言

作物保護

— 農薬工業会の英名変更と思う —

財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事 徳島 秀一
前 農 薬 工 業 会 会 長
日 産 化 学 工 業 株 式 有 限 公 司 会 長

農薬工業会長として在任中であった昨年、会員の皆さんに検討してもらって、農薬工業会の英名を Society of Agricultural Chemical Industry - 略称 S A C I から、Japan Crop Protection Association - 略称 J C P A に変更致しました。その意味は二つありまして、ひとつは日本農業並びに農薬工業会の国際化が急速に進む中で、日本の農薬工業会も世界各国の工業会と会議・交流をもつ場面が増えて参りました。そのような時に、S A C I ではどこの国の工業会なのかははっきりしません。現在世界の農薬工業会は、既存のアメリカ、ヨーロッパ、日本に加え、新たにラテンアメリカ、アフリカ・中近東、アジア・太平洋の三つの地域工業会が組織され、それぞれの活動を行っておりますが、日本以外は何れも、例えば ACPA - America Crop Protection Association - のように、国または地域の名前が入っておりますので、その所属するところなり、活動の地域がすぐに分かります。従来の S A C I と言うのは工業会の活動が日本国内だけで展開されていた頃の名称のままでありますので、これを世界に通用する名称に変更することでありました。

もう一つはアメリカの例のように最近では世界の工業会や企業は農薬の呼び名に Crop Protection「作物保護」を使っております。農薬が私たちの大切な食糧である作物の生育と収穫に不可欠のものであると理解されながらも、一部農薬害のみが強調され、悪いイメージだけが植え付けられていることを何とか払拭し、農薬についての正しい認識を広めんがためであります。

昨年の11月には G I F A P も、G C P F - Global Crop Protection Federation (世界作物保護連盟) - と名称を変更しました。名称変更に合わせて次の通り宣言しております。

- (1) 新たな名称は、連盟および会員企業の性格が今日の環境と調和をなすものである。
- (2) 名称変更は、持続可能な農業に対する作物保護の役割を一般に理解してもらうのに役立つと考える。
- (3) 又、連盟は、大きく変化しつつある環境下にあって変化を受け入れ、かつ弾力的に対応するものである。

これはまさに J C P A の改名と共通するところであり、そのまま日本農薬工業会の立場であるともいえます。

今、日本で使われている農薬の約60%前後のものが海外から輸入される農薬原体に依存していると言われております。また、日本で開発された農薬原体を含め、昨年は800億円以上の原体及び製品がわが国から海外へ輸出され、世界各国で使用されております。それらはそれぞれの国の登録基準に基づいて安全性チェックがなされ認可されております。我が国の登録基準が厳しいことは周知のことですが、EUにおける登録基準の統合の動きなどに見られますように、お互いに情報を共有化し、各国の制度運用の参考に供していく方向にあります。作物残留基準に関する共通基準の問題など、食糧のボーダーレス化が進む中で当然のことでありましょう。地球の緑を守り、生活環境を守ることも共通の課題であります。

農薬は作物保護のためにあるものであり、私達の食糧を確保するために不可欠のものであります。作物育成の環境条件は人口の増加、生活文化の発展、人間の行動範囲の拡大とともに刻々変化しております。安全にして十分な食糧を確保するために、作物の直接生産者はもちろん、私達、作物の保護育成に携わる者の役割はますます大きくなっていると考えております。